

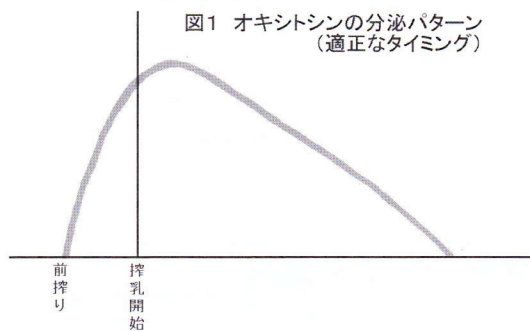
# 酒とパソコンと少々ミルク

## 儲かる搾乳作業

成光 昭男

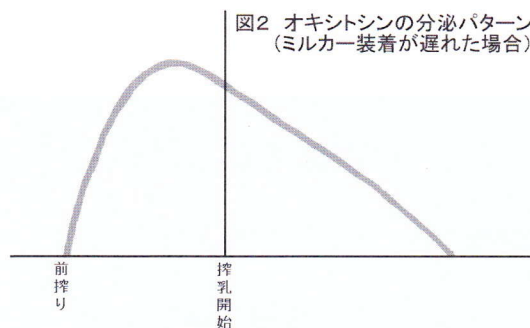
毎日のお仕事お疲れ様です。酪農家にとって大切な仕事のひとつである搾乳作業について考えます。

前搾りからミルク装着までの時間は60秒～90秒が適正とされています。前搾りの刺激によりオキシトシンの分泌がはじまり、十分な分泌量に達した頃にミルクを装着するのが好ましいのです。(図1)



ところが、実際の搾乳作業を観察しますと、前搾り～ミルク装着までの時間がかなり長いことが多いです。

この場合、ミルク装着からオキシトシンが分泌されている時間が短くなりますから、当然搾乳量が減少してしまいます。(図2)



実際に調査したデータを見てみましょう。

ちょっと古いデータで恐縮ですが、平成8年に県畜産試験場で行った試験成績です。

改善前はミルク装着まで149秒(2分29秒)掛かっていましたが、搾乳手順を改善することにより、ミルク装着まで66秒に短縮することができました。

注目すべきはミルク装着までの時間を短縮することにより、装着～離脱の時間が412秒(6分52秒)から486秒(8分6秒)と74秒(1分14秒)も長くなったことです。これは、図2のパターンから図1のパターンに変化したために、より長くオキシトシンの影響を受けたためと思われます。

表1 適正なミルク装着時間の効果 (1997,宮崎畜試)

	作業始め～ ミルク装着 (秒)	ミルク装着 ～離脱 (秒)	平均 乳量 (kg)
改善前	149	412	17.6
改善後	66	486	19.3

当然、乳量も増加しました。搾乳牛40頭の経営を想定すれば、年間約250万円の増収になる計算ができます。

装着～離脱の時間の適正値は解りませんが、ラクトシステム社が16072件(H25.11.14現在)のラクトコーダーによるデータを見ると、装着～離脱の時間が長いほど明らかに乳量が多くなる傾向があるようです。

では、ミルク装着までの時間を短縮するためにはどうするか。ポイントは2つです。

- ・前搾りからミルク装着までの作業は連続して行い、他の作業を入れない。
- ・前搾りからミルク装着までの作業は1人で行うこと。

パイプラインやタンデム方式のパーラーでは、前搾りからミルク装着までの作業を1頭ずつ、行います。ヘリンボーンやパラレル方式のパーラーでは2頭を一組として作業を行います。

ミルク装着までは何があってもその場を離れて他の作業を行ってはいけません。

これで、あなたもがっちり儲けます。